

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：35409

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K04821

研究課題名（和文）20世紀前半のドイツにみる近代化における新しい郷土像の追求に関する研究

研究課題名（英文）Study on the pursuit of a new image of the home in modernisation in Germany in the first half of the 20th century

研究代表者

山本 一貴（Yamamoto, Kazuki）

福山大学・工学部・講師

研究者番号：90533977

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀前半のドイツにおける大都市の住宅問題に関する議論について、近代化における新しい郷土像の追求という視点から注目し、1) 『Die Bauwelt』や『Stein, Holz, Eisen』など、複数の雑誌を中心とする文献資料の調査に基づく、郷土に関する議論の経過と傾向の分析、2) ベルリンやフランクフルトにおける先駆的な住宅・住宅地の事例の現地調査に基づく、具体的な建築空間像の分析、3) 同時代の日本におけるセセッションやジードルンクなどのドイツ建築思潮の理解との比較考察により、20世紀前半の近代化における住宅建設の理念と方法の史的展開の一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

郷土という主題は、都市と農村、近代と伝統、定住と移動との間に立ち上がる。人口流動社会での大都市圏への人口集中と地方振興から被災地の復興まで、誰しもが直面しうる普遍的な課題である。本研究が注目した新しい郷土像は、近代化に伴う都市化により大都市に住むようになった人々の間に広がる郷土喪失感に対し、旧来の郷土保護運動等とは性格を異にして、大都市に住むことを包摂する。雑誌上の議論や空間の具体像の分析を通じ、新しい郷土像を追求する姿が多方面から明らかになったことは、20世紀前半の近代建築思潮の史的展開について新たな展望を開くとともに、現代社会にとっても有益な示唆が得られた点に学術的意義や社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the debate on housing problems in large cities in Germany in the first half of the 20th century from the perspective of the pursuit of a new image of the hometown in the context of modernisation. 1) An analysis of the debate on the hometown based on a survey of literary sources, mainly in several journals such as "Die Bauwelt" and "Stein, Holz, Eisen"; 2) An analysis of specific architectural spatial images based on field surveys of examples of pioneering houses and residential areas in Berlin and Frankfurt; and 3) A comparative study with the contemporaneous understanding of German architectural thought in Japan, such as Secession and Siedlung, revealed aspects of the historical perspective of the ideas and methods of housing development in the modernization of the first half of the 20th century.

研究分野：建築学

キーワード：モダニズム モダン・ムーブメント 故郷 ジードルンク 工業化 都市化 郷土保護 洋雑誌

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

20 世紀前半のドイツでは、近代化に伴う都市化の流れのなかで、人々の生活する住まいの問題が多方面から議論された。住宅改革運動や田園都市運動に始まり、第一次世界大戦による混乱期を経て、大戦直後の建設活動の停滞期には住宅需要の増大を受け、戦前の議論を踏まえて新たに議論が重ねられ、そしてその後の 1920 年代後半から 30 年代にかけて大量生産期に至る。こうして数多く建設されたジードルンクと呼ばれる住宅団地は、今日では世界遺産やドコモモに選定されるなど、建築におけるモダン・ムーブメントの成果を示すものとしてよく知られる。しかし、20 世紀前半を通じて、住宅団地の計画理念や設計手法について、どのような議論がなされてきたかは、日本も含めて国際的にも広く影響を及ぼしたと考えられるがゆえに注目される。

本研究で着目するのは、このような 20 世紀前半のドイツでの大都市の住宅問題の議論における新しい郷土像の追求である。これまでの研究を通じて、当時のドイツでは、安価で良質な住宅建設の議論と同時に、大都市に働きに出てきた人々とその家族の間に広がる郷土喪失感に対して、どのように問題解決すべきかが議論され、旧来の郷土芸術運動や郷土保護運動の場合とは異なるかたちで、新しい郷土像が追求されていたことが次第に分かってきたことが理由である。

住まいの近代化の中で、「郷土」というものはどのように書き換えられ、位置づけられ、追求されたのだろうか。このことについて、20 世紀前半を通じて、何がどのように議論されたかについて、十分な注意が払われてきたとは言いがたい。しかし、ここでいう「郷土」とは、ドイツ語の「Heimat」や英語の「hometown」に相当する。「Heim」や「home」などと結びつき、「Haus」や「house」では捉えきれない「住まい」の根幹に関わるキーワードである。それゆえに、20 世紀前半を通じた議論を新しい郷土像の追求という視点から紐解いていくことは、近代建築思潮、とりわけ住宅・都市建設の史的展開について新たな展望を開きうる学術的意義がある。今日的にみても、被災地の復興から人口流動社会での大都市圏への人口集中と地方振興に至るまで、新しい郷土像の追求は、誰しもが直面しうる普遍的な課題であるがゆえに、現代社会にとっても有益な示唆が得られうる。

2. 研究の目的

本研究は、近代化に伴い工業化や都市化の進む 20 世紀前半のドイツを対象に、大量の住宅建設をめぐって人々によって追求された新しい郷土像を明らかにすることを目的とする。複数の雑誌を基礎資料に、住宅建設の議論の経過と傾向、編集者の見解、またそれらによって提示される理念と手法、さらにそれらを基礎に応用したと考えられる実際の計画や現況から、具体的な建築空間像を分析することにより、本研究の目的を達成し、住宅・都市の史的展開の実態解明に対する新しい視座の獲得を目指す。

3. 研究の方法

研究の方法は、(1) 文献資料の調査に基づく議論の分析、(2) 現地調査に基づく建築空間像の分析、(3) 各調査に基づく分析の総合からなる。

(1) 文献資料の調査に基づく議論の分析

『Die Bauwelt』(1910 年創刊)、『Der Staedtebau』(1904 年創刊)、『Der Baumeister』(1903 年創刊)、『Stein, Holz, Eisen』(1926 年創刊) の 4 誌を中心に、ナチスが政権を掌握する 1933 年までの 20 世紀前半に発表された各誌の雑誌記事を網羅的に調査・収集し、郷土に関する雑誌上の議論の経過と傾向を析出する。また、当該の雑誌編集に関与していた人物らによる著作を調査・収集し、新しい郷土像の追求に関する見解の把握を行う。

調査対象となる雑誌資料等、本研究に必要な文献資料は、大半が国内機関ではまとまった所蔵が確認できないため、ベルリンのベルリン州立図書館、ベルリン工科大学図書館、ライプツィヒのドイツ国立図書館、フランクフルトのドイツ建築博物館、フランクフルト市史研究所、ドイツ国立図書館、ダルムシュタットのダルムシュタット工科大学・州立図書館等のドイツ国内の複数の図書館や資料館を訪ね、文献調査・収集を行う。

(2) 現地調査に基づく建築空間像の分析

郷土像に関して各誌で議論の遡上による、住宅や住宅地の先駆的な開発手法や応用事例について、現地を調査し、建築資料とともに具体的な建築空間像を分析する。

候補地はドイツ国内各地に点在することが予想されるが、特に住宅建設が盛んに行われ、他都市への影響力があったと想定されるベルリンやフランクフルトの大都市に重点を置いて行う。

(3) 各調査に基づく分析の総合

上記の文献調査と現地調査をもとに得られた知見を総合し、20 世紀前半のドイツにおいて追求された新しい郷土像の特質を明らかにする。また、同時代の日本におけるセセッションやジードルンクなどのドイツ建築思潮の理解との比較考察を加える。以上から、20 世紀前半の近代化における住宅建設の理念と方法の史的展開の一端を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

本研究は、20世紀前半のドイツにおける大都市の住宅問題に関する議論について、近代化における新しい郷土像の追求という視点から注目し、①『Die Bauwelt』や『Stein, Holz, Eisen』など、複数の雑誌を中心とする文献資料の調査に基づく、郷土に関する議論の経過と傾向の分析、②ベルリンやフランクフルトにおける実験的な住宅・住宅地の事例の現地調査に基づく、具体的な建築空間像の分析、③同時代の日本におけるセセッションやジードルンクなどのドイツ建築思潮の理解との比較考察により、20世紀前半の近代化における住宅建設の理念と方法の史的展開の一端を明らかにした。

なお、本研究は当初2019年度から4カ年での実施を予定していた。しかし、当初計画をしていたドイツでの文献調査と現地調査について、2019年度末頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、2020年度と2021年度は断念をせざるを得なかった。2022年度後半に入ってようやくドイツへの渡航の目途が立ち、2022年度、そして事業期間を1ヶ年延長して、2023年度にもドイツでの文献調査と現地調査を実施した。国内外での移動に困難が伴う間、これまでの国内外での調査で得られた資料の精査や日本国内からでもアクセス可能なデータベースの調査など、国内からでも可能な範囲の調査に切り替えるなどし、研究を継続することができた。

① 文献資料の調査に基づく議論の分析

文献調査の主な対象とした4誌、『Die Bauwelt』(1910年創刊)、『Der Staedtebau』(1904年創刊)、『Der Baumeister』(1903年創刊)、『Stein, Holz, Eisen』(1926年創刊)について、コロナ禍により当初の計画よりも時間を要したうえ、一部補足調査を要するものの、1933年までを対象に雑誌記事を網羅的に調査し、収集することができた。こうして調査、収集し得た文献資料を整理するとともに、20世紀前半のドイツにおける、郷土に関する雑誌上の議論の経過と傾向の析出を進めた。

また、当該の雑誌編集に関与していた人物らによる住宅、建築、そして都市に関する著作の内容を精査することにより、新しい郷土像の追求に関する見解の把握を進めた。新しい郷土像の追求に関する議論が確認されるひとつが、『Der Staedtebau』の編集に1919年から1923年まで関与した建築家として知られるH・デ・フリースの『Wohnstaedte der Zukunft (未来の住宅都市)』(1919)である。旧来の郷土芸術運動等によってイメージされる郷土が、近代化の反動として、地方性、伝統性のニュアンスが付加されているのに対して、デ・フリースは『未来の住宅都市』で、近代化の現実を受けとめる立場から、都市部で働く人々の生活を考慮して、出来る限り都市の近くに住宅地を開発するとともに、健康的な家庭生活を営む居心地の良い場所の意味で、都市部の住まいに「郷土」の感覚をつくり出すことを主題化しており、具体的な建築空間像も提示されている。新しい郷土像の追求に関する議論の核心と経過を析出するため、同書で引き合いに出される、R・エバーシュタットの『Handbuch des Wohnungswesens und Wohnungsfrage (住宅事情と住宅問題の手引き)』(第1版：1909、第2版：1910、第3版：1917、第4版：1920)、そしてK・シェフラーの『Die Architektur der Grossstadt (大都市の建築)』(1913)と比較し、それらの参照箇所と文脈の把握を進めた。

② 現地調査に基づく建築空間像の分析

新しい郷土像の追求に関する議論について、20世紀前半のドイツにおける住宅や住宅地の先駆的な開発手法や応用事例を現地踏査することにより、具体的な建築空間像の把握を進めた。現地踏査した例を挙げれば、ジードルンク・レーマーシュタット(1927/28)やジードルンク・アム・リンデンバウム(1930)などのフランクフルト市内のジードルンク、そして、ガルテンシュタット・ファルケンベルク(1913-16)やジードルンク・シラーパーク(1924-30)、ヴォーンシュタット・カール・レギーン(1928-1930)ヴァイセ・シュタット(1929-31)などのベルリン市内のジードルンクのほか、ハウス・ホーヘ・パッペルン(1907/08)やハウス・アム・ホルン(1923)などのヴァイマル市内の住宅である。

③ 同時代の日本におけるドイツ建築思潮の理解との比較分析

ドイツでの新しい郷土像の追求に関する議論の展開を多方面から検討するため、また、コロナ禍でも可能な範囲の研究を進めるため、同時代の日本国内での議論に注目して比較考察をおこなった。特に注目したのは、昭和戦前期に建築学会が刊行した山田守著『ジードルンク』(建築学会刊、1933)である。同書における参考文献や図版の豊富な掲載に着目して、内容の分析から参考文献の書誌情報や図版の典拠の特定を行い、参考文献や図版の典拠資料に、『Die Bauwelt』や『Der Baumeister』、『Stein, Holz, Eisen』の雑誌記事が含まれることも確認した。また、明治・大正期の日本で広く流行した「セセッション」に注目し、ドイツの住宅建築を含む海外事例の図版を集めて刊行された『セセッション図案集』と『世界建築 様式図解』(ともに洪洋社刊)に着目して、図版の典拠の特定を試みるほか、掲載内容の分析から出版時期や集数の推定をおこなった。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

近代における住宅問題に関する研究は数多あるが、「郷土」の扱われ方に関心を示すものに、

M. Umbach と B. Hueppauf の共編著『Vernacular Modernism: Heimat, Globalization, and the Built Environment』(Stanford University Press, 2005)がある。これは、「ヴァナキュラー」を切り口に近代性の再考を企図する興味深い視点を含んだ論考集である。それに対して本研究を通じて得られた成果は、住宅建設をめぐる議論とその実践に焦点を当てたもので、直接的に「郷土」の位置づけと近代性の再考につながるものとなった。

また、同時代の日本におけるセセッションやジードルンクなどのドイツ建築思潮の理解との比較考察を加えたことにより、ドイツ近代建築思潮に対してだけでなく、日本近代建築思潮に対しても、20世紀前半の近代化における住宅建設の理念と方法の史的展開に対する新たな視座を獲得するものとなった。

(3) 今後の展望

ひとつは、文献資料の調査に基づく議論の分析について、新型コロナウイルス感染症の影響により調査自体に困難が伴ったこともあり、議論の分析について詳細に検討する余地を残していることである。具体的には、郷土像とその追求の根拠、開発地とその選定根拠、住戸・住棟・住区そして庭・緑地のタイプとプランの決定根拠、建築の美的評価とその根拠、工業化や都市化などの社会の変化に対する考え、田園都市運動・郷土芸術運動・郷土保護運動・近代建築運動に対する考えなどが挙げられる。これらの検討項目について雑誌記事の内容を仔細に分析することにより、何がどのように議論されたかについて、さらに詳らかにする。

もうひとつは、雑誌記事の網羅的な調査・収集を通じて、雑誌出版社による展覧会の開催やカタログの刊行などを把握するに至ったことである。例えば、『Die Bauwelt』は、個別の建築家に焦点を当てた展覧会だけでなく、テーマを定めて複数の建築家から住宅の提案を集める企画展も開催し、その結果を雑誌紙面でも広く紹介している。同出版社は、壁紙や衛生器具をはじめ、住宅や建築の建設に用いる工業製品を紹介するショールームの開設やカタログの刊行もおこなっている。雑誌の網羅的な調査により把握できたこれら出版社の活動は、建築家、企業、社会の間をつなぐもので、新しい郷土像の追求にとって注目に値する。展覧会の企画経緯や出展作品、カタログの出版経緯や掲載製品を分析することにより、新しい郷土像の追求に関する議論の展開、特にどのような空間や形の住まいが目指されたかについて、いっそう明らかにする。

さらに、ドイツの建築思潮だけでなく、同時代の日本の建築思潮との比較分析をさらに進め、新しい郷土像の追求という視点から、近代建築思潮、とりわけ住宅建設に関する計画理念や設計手法について、ドイツやヨーロッパから日本への伝播、受容、そして理解の過程や実態について解明を進める。

以上のような観点から今後も研究を進展させることにより、20世紀前半における新しい郷土像の追求に関する建築思潮を明らかにし、近代における住まいと郷土の問題について考察を深め、住宅・都市の史的展開について新たな展望を開くことを目指す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山本一貴, 中江研	4. 巻 2024
2. 論文標題 ヴァルター・グロピウス関連の刊行物にみる山田守著『ジードルンク』の掲載図版の典拠について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一貴, 中江研	4. 巻 64
2. 論文標題 『Bauwelt』の雑誌記事にみる山田守著『ジードルンク』の掲載図版の典拠について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 341-344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原美菜子, 中江研, 山本一貴, 堀内啓佑	4. 巻 64
2. 論文標題 『セセッション圖案集 外観之部』の基本的書誌情報について: 『セセッション圖案集』に関する研究 その4	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 337-340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原 美菜子, 中江研, 山本 一貴	4. 巻 30
2. 論文標題 洪洋社刊『世界建築 様式図解』に関する基礎的研究 その1: 書誌情報について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 450-455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aijt.30.450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原美菜子, 中江研, 山本一貴, 堀内啓佑	4. 巻 63
2. 論文標題 『セセッション圖案集 室内之部』の基本的書誌情報について: 『セセッション圖案集』に関する研究 - その3	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 281-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一貴, 中江研	4. 巻 2023
2. 論文標題 山田守によるジードルンクに関する論考とその典拠: 欧米出張から『ジードルンク』の刊行までを中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	6. 最初と最後の頁 447-448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一貴	4. 巻 -
2. 論文標題 「ウィーン文化財」: ウィーン市による建築データベースとデジタル都市地図の統合	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 2023年度日本建築学会大会 (近畿) 建築歴史・意匠部門パネルディスカッション(1)資料 歴史的建築データベースのこれまでとこれから	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一貴, 中江研	4. 巻 62
2. 論文標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「図表」及び「図」の典拠について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 437-440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一貴, 中江研	4. 巻 2022
2. 論文標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「表」の典拠について その1:「国際新建築会議」の報告書との比較を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	6. 最初と最後の頁 713-714
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中江研, 山本一貴	4. 巻 2022
2. 論文標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「表」の典拠について その2:「国際住居会議」の報告書との比較を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	6. 最初と最後の頁 715-716
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一貴, 中江研	4. 巻 61
2. 論文標題 山田守著『ジードルンク』に「参考書」として掲載される雑誌等について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 541-544
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本美咲輝, 秋田湧大, 中江研, 山本一貴	4. 巻 61
2. 論文標題 『セセッション圖案集 外観之部』掲載作品の特定とその作品情報について - 『セセッション圖案集 外観之部』の掲載作品に関する研究 その1 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 513-516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田湧大, 中江研, 山本一貴	4. 巻 61
2. 論文標題 『セセッション圖案集 外觀之部』掲載図版の原出典について - 『セセッション圖案集 外觀之部』の掲載作品に関する研究 その2 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 517-520
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩谷沙織, 山本一貴, 中江研	4. 巻 2020
2. 論文標題 近代オランダ建築の図版資料に関する Howard Robertson の情報収集について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	6. 最初と最後の頁 423-424
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽山華望, 中江研, 堀内啓佑, 山本一貴	4. 巻 60
2. 論文標題 dezamによる文献研究・集団の活動・雑誌制作について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 - その2 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 549-552
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内啓佑, 羽山華望, 中江研, 山本一貴	4. 巻 60
2. 論文標題 dezamの組織と活動の概要について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 - その1 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 545-548
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 穴井万智, 秋田湧大, 中江研, 山本一貴, 塩谷沙織	4. 巻 60
2. 論文標題 日本趣味および日本に移入された「セセッション」への言及について - 大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その2 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 537-540
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋田湧大, 穴井万智, 中江研, 山本一貴, 塩谷沙織	4. 巻 60
2. 論文標題 武田五一、岡田信一郎の「セセッション」への言及について 大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 533-536
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩谷沙織, 中江研, 山本一貴	4. 巻 60
2. 論文標題 英国建築協会AAIによる1922年のオランダ建築視察旅行について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6. 最初と最後の頁 565-568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一貴	4. 巻 842
2. 論文標題 保存活用と近代建築のあいだ 文化財をめぐる京都発の実践から測る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 建築技術	6. 最初と最後の頁 150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山本一貴 , 中江研
2. 発表標題 ヴァルター・グロピウス関連の刊行物にみる山田守著『ジードルンク』の掲載図版の典拠について
3. 学会等名 2024年度日本建築学会大会（近畿）学術講演会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山本一貴 , 中江研
2. 発表標題 『Bauwelt』の雑誌記事にみる山田守著『ジードルンク』の掲載図版の典拠について
3. 学会等名 令和6年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤原美菜子, 中江研, 山本一貴, 堀内啓佑
2. 発表標題 『セセッション圖案集 外観之部』の基本的書誌情報について: 『セセッション圖案集』に関する研究 その4
3. 学会等名 令和6年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤原美菜子 , 中江研 , 山本一貴 , 堀内啓佑
2. 発表標題 『セセッション圖案集 室内之部』の基本的書誌情報について: 『セセッション圖案集』に関する研究 - その3
3. 学会等名 令和5年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本一貴, 中江研
2. 発表標題 山田守によるジードルンクに関する論考とその典拠: 欧米出張から『ジードルンク』の刊行までを中心に
3. 学会等名 2023年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本一貴, 中江研
2. 発表標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「図表」及び「図」の典拠について
3. 学会等名 令和4年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本一貴, 中江研
2. 発表標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「表」の典拠について その1: 「国際新建築会議」の報告書との比較を中心に
3. 学会等名 2022年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「表」の典拠について その2: 「国際住居会議」の報告書との比較を中心に
3. 学会等名 2022年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本一貴, 中江研
2. 発表標題 山田守著『ジードルンク』に「参考書」として掲載される雑誌等について
3. 学会等名 令和3年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮本美咲輝, 秋田湧大, 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 『セセッション圖案集 外観之部』掲載作品の特定とその作品情報について - 『セセッション圖案集 外観之部』の掲載作品に関する研究 その1 -
3. 学会等名 令和3年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋田湧大, 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 『セセッション圖案集 外観之部』掲載図版の原出典について - 『セセッション圖案集 外観之部』の掲載作品に関する研究 その2 -
3. 学会等名 令和3年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塩谷沙織, 山本一貴, 中江研
2. 発表標題 近代オランダ建築の図版資料に関する Howard Robertson の情報収集について
3. 学会等名 2020年度日本建築学会大会(関東)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋田湧大, 穴井万智, 中江研, 山本一貴, 塩谷沙織
2. 発表標題 武田五一、岡田信一郎の「セセッション」への言及について 大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その1
3. 学会等名 令和2年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀内啓佑, 羽山華望, 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 dezamの組織と活動の概要について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 - その1 -
3. 学会等名 令和2年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 羽山華望, 中江研, 堀内啓佑, 山本一貴
2. 発表標題 dezamによる文献研究・集団的活動・雑誌制作について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 - その2 -
3. 学会等名 令和2年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 穴井万智, 秋田湧大, 中江研, 山本一貴, 塩谷沙織
2. 発表標題 日本趣味および日本に移入された「セセッション」への言及について - 大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その2 -
3. 学会等名 令和2年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 塩谷沙織, 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 英国建築協会AAIによる1922年のオランダ建築視察旅行について
3. 学会等名 令和2年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅原美咲, 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 『セセッション圖案集 室内之部』各版の掲載内容について 『セセッション圖案集』に関する研究 - その1 -
3. 学会等名 2019年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 穴井万智, 菅原美咲, 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 『セセッション圖案集 外観之部』各版の掲載内容について 『セセッション圖案集』に関する研究 - その2 -
3. 学会等名 2019年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩谷沙織, 中江研, 山本一貴
2. 発表標題 近代オランダ建築に関する日本の建築系雑誌での最初期の紹介におけるRobertsonの論考への依拠とその解釈
3. 学会等名 2019年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩谷沙織, 山本一貴, 中江研
2. 発表標題 近代オランダ建築に関する今井兼次の紹介におけるRobertsonの論考への依拠とその解釈 その1 一致点について
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本 一貴, 塩谷 沙織, 中江 研
2. 発表標題 近代オランダ建築に関する今井兼次の紹介におけるRobertsonの論考への依拠とその解釈 その2 相違点について
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------